

## 令和4年度予算

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第1回の今日は、令和4年度予算について、お話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 令和4年度の予算のうち、福祉や教育など、市役所の基本的な業務に関わる一般会計予算は392億円と伺っています。

では、予算を編成する上で意識したことはどのようなことでしょうか。

市長： 私が市長に就任して以来、皆様とともに「協働」で取り組み、深く浸透いたしました「ガーデンシティみしま」「スマートウエルネスみしま」「コミュニティづくり」をまちづくりのベースとしまして、令和3年度からスタートしております第5次三島市総合計画に掲げた諸事業につきまして、「withコロナ」を意識しながら着実に推進するとともに、新たな時代に対応したスマート市役所として「デジタル・トランスフォーメーション」を強力に押し進めていくことに重点を置いて予算を編成いたしました。

アナ： 「withコロナ」を意識したとのことですが、具体的にはどのような事業を予定されているのでしょうか。

市長： 非接触のキャッシュレス決済の更なる普及と市内事業者への支援となるキャッシュレス決済ポイントバック事業を実施いたします。

これは、対象となるスマートフォン決済アプリ利用の際にポイントを還元するもので、市内において個人消費を促すとともに、事業者を支援し、経済の回復につながるものです。

また、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながらではありますが、昨年度非常に好評でしたツアーバス誘客促進事業を引き続き行いますほか、三島の伝統・文化の承継であり、まちの賑わいを創出する三嶋大祭りを3年ぶりの開催に向け、従来以上に支援する予算を計上しました。

そのほか、小中学校における感染症対策としての手洗い場のタッチレス水栓化や、生活困窮などで食べることに困っているお子様への配食支援なども実施してまいります。

アナ： 三嶋大祭りについては、放送中の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の人気にもあやかりながら、例年以上の賑わいを取り戻して欲しいですね。

ところで、先程「デジタル・トランスフォーメーション」の推進とおっしゃっていましたが、具体的にはどのようなことをされるのでしょうか。

市長： 「待たない・書かない」市役所窓口を目指すため、窓口業務のデジタル化やキャッシュレス化を行うとともに、市役所に来庁されなくてもパソコンや

スマートフォンを使ってオンラインで申請手続きができるシステムを導入する予定です。

また、デジタル技術に精通した民間の人材を受け入れ、職員の意識・知識を向上させるとともに、テレワークやビジネスチャットを活用することで業務の効率化や職員の働き方改革を推進するなど、市民ファーストで便利なスマート市役所の実現につなげていきます。

アナ： 平日にお仕事をされている方にとっては、市役所に来庁せずに各種申請ができることは素晴らしいことですね。

他にも注目の事業はありますか。

市長： 未来を担うお子様の誕生を祝福するとともに、子育て家庭の経済的な負担を軽減する新たな取り組みとして、第1子に1万円、第2子に5万円、第3子以降に15万円の「出産祝金を支給」いたします。

また、安全・安心のまちづくりとして、大雨時の増水への対策として、大場川から都市下水路への逆流を防ぐ「竹ノ下樋門ゲートの改築」などを行います。

さらに、魅力と活気あるまちづくりにつながる「三島駅南口東街区再開発事業」を引き続き進めますとともに、「大場地区における都市的整備」の早期事業化を促進してまいります。

アナ： なるほど、出産祝金や次世代に向けた事業など、三島の未来を担う子どもが増えるよう安心・安全なまちづくりをしていくということですね。

コロナ禍を乗り越え、さらに輝く活気に満ちた魅力あふれるまちになってくれるものと期待しています。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。